

中沢かつゆき 通信

自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



自由民主党



自民党鎌倉市連合支部幹事長

市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

9月議会と視察

初議会から、たった一人続けている一般質問。一般質問を行うには、資料を集め、関係個所に視察に伺い、担当課に聞き取りを行い、質問項目を作ります。日頃の活動の中から、様々な方から頂いた情報を活用し、質問項目に反映させます。9月議会では、ライフワークである防災と子どもたちの環境等、そして市長の政治姿勢について質問を行いました。

今夏、初めて実施した「にかいどう子供会館夏祭り」では、700人を超える方に来所いただき、大成功でした。地域との連携の大切さは、東日本大震災においても実証されたことですが、子供たちの放課後活動をもっと考えなくては、そして、もっと地域の方に施設を知っていただく

企画した夏祭りが大成功を収めましたので、心から喜んでいます。今年は、子どもの家の担当として企画から携わりましたが、来年度以降も継続することとなりました。

防災については、東日本大震災から1年半が過ぎ、様々な課題が出ているにもかかわらず、なかなか進まない鎌倉市の防災について質問をしました。被災地では、未だ32万人を超える方が避難しています。しかし、被災地を伝える報道が少なくなり、支援も少なくなっています。しかし、自民党鎌倉市連合支部では、青年局が中心となり様々な支援を続けています。鎌倉の防災を考え、次代の鎌倉が安心・安全な鎌倉であるよう整備を行わなくてはと思います。

鎌倉市におけるいじめ問題

今夏、連日報道された大津市のいじめ自殺問題。鎌倉市におけるいじめの現状はどうなっているのか、その認識はどうなのか、大津市のようなことはないのか、市内のいじめについて学校と教育委員会が真剣に調査、対応しているのか心配していましたら、教育委員会がまさに連日いじめについて報道されている中「暑気払い」を行っていることが発覚。連日各地の教育委員会が奔走している中、鎌倉市では考えられないことを行っていました。そして、鎌倉市でも、「いじめ」というよりも明らかに犯罪行為があるにもかかわらず、そのことを教育委員会は全く把握していませんでした。議員の中には、「いじめは昔からある」という方もいます。しかし、いじめは「あってはいけないこと」なのです。教

育委員会は、とかく「数」で報告します。しかし、一つ一つのいじめを解決していかなくてはならないのに、去年よりも数がどうだとかいうことは、全く意味がありません。小学校でも、学級崩壊があります。授業中児童が教室中を走り回る。休み時間筆箱や教科書が教室を飛び、女子児童が防災ずきんを被っているという事実も把握していませんでした。学校が「いじめ」として報告していない事例もあります。いじめを受けた子の頼るところは「学校」です。そして、「教師」です。しかし、現実には「逃げ場」がないこともあります。学校だけでなく、教育委員会も含めた対応ができる体制を一日も早く作らなくてはと思います。

視察

総務常任委員会で、沖縄県の「世界遺産登録の諸課題について」視察を行いました。9月に、イコモスの現地調査が行われ、来年の5月ごろに報告がされる予定です。世界遺産登録は、登録後も様々な管理を行っていかなくてはなりません。また、その費用も、市で賄っていくのか、県や国の補助があるのかなどについても、視察を行いました。初日は、「勝連城跡」のあるうるま市へ。台風接近により上ることはできませんでしたが、登録後も石垣整備を続けているそうです。国庫補助を受けながら進めているそうですが、維持管理費は市で支出していかなくてはならないので、今後の課題とのことでした。翌日は、那覇市内。識名園と首里城の視察です。識名園は、戦争で壊滅的な被害を受けましたが、本土復帰を機に整備がすすめられています。年間維持費に6,000万円かかり、入場料と市の支出で管理を行っているそうです。鎌倉市も、登録後の維持管理について考えなくてはと思います。

市長の政治姿勢

市長が任期中で辞職し、国政に出馬するのでは、ということが巷間言われています。衆議院選も近づき、現実味を帯びてきましたが、市政があらゆる分野で停滞し、教育長を含めた教育委員も決められない中、もし任期中で辞任することがあれば、政治家として疑問を持たざるを得ませんので、市長の姿勢に欠ける熱意と覚悟を聞きました。報道を含めて、初めて「任期一杯市長を務めます」との発言がありました。今までは、選挙公約の市議会議員選との同日選を目指す、ということに終始し、任期一杯についての言質はありませんでした。来年の市長選まで、責任をもって市長職を務めてほしいと思います。

視察終了後、一人で石垣島へ行きました。石垣島は、明和8年(1771年)に津波遡上高85.4mという国内最大の津波を記録しました。近年の研究では、遡上高は30mということも言われていますが、それでも、記録上最大級の津波が襲ったことは事実です。東日本大震災後、明和大津波が改めて注目されています。石垣島各地に残る津波跡や伝承、慰霊式などを見て回りましたが、改めて「津波」の力を痛感しました。海岸からかなり離れた内陸にある明らかに地上部とは違う大岩。海岸線に広がる大岩群。眼下に津波被害集落を望む地にある慰霊塔。子供の頃、朝起きないと「津波にやられるぞ」といわれたそうです。朝早く農作業に出た島民は助かったという言い伝えによるものだそうです。地震、津波は、日本国内どこでも起きているということを実感しました。

中沢かつゆきの経歴

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業
東京電機大学理工学部情報科学科卒業
スパライズ株式会社代表取締役
大阪観光大学観光学研究所
客員研究員
鎌倉中央ロータリークラブ副会長
材木座保育園保護者会会長
にかいどう子どもの家父母会会長
鎌倉市テコンドー協会顧問
県議会議員中村省司秘書
著書「安全な温泉・あぶない温泉」
(草思社刊)
二階堂在住
事務局：Tel 0467-61-0305
Fax 0467-61-0315

ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？



* 中沢かつゆきは温泉コンサルタントでもあります *

沖縄の温泉：南国・沖縄にも、意外と温泉があります。本土復帰以来、観光県として本土からの観光客を迎えるため、温泉が開発されてきました。那覇市内では「ロワジュール」。那覇市内にあるホテル内温泉です。恩納村の「山田温泉」。ルネッサンスリゾート内にある温泉。タラソテラピーなども充実しています。北谷町の「ちゅら一ゆ」。ヒーリングプールも隣接し、南国と温泉が一体となった温泉です。最南端の「西表島温泉」。露天風呂が多く、水着で入ります。一度は訪れたい温泉です。沖縄は、本島だけでなく離島でも温泉があります。泉質は、海の近くということもあり、ほとんどがナトリウム-塩化物泉。日焼けした肌にはいい泉質です。日焼け肌には少し刺激がありますが、「皮膚病など」にいい温泉です。以前は湯湯制限はありませんでしたが、近年の掘削数の増加により、今は湯湯制限を設けています。それでも、温度もあり湯量もある沖縄の温泉は、これからの沖縄観光にとって、大切なアイテムとなると思います。

<http://www.okinawastory.jp/>